

## 御室桜

この木々は御室桜である。遅咲きの桜で、仁和寺といえば御室桜として広く知られている。桜が生えている土地は、かつては何も植えられていなかったが、数百年前に寺の僧侶たちがその上に粘土のような表土の層をかけて苔を生やし、桜が育ちやすい環境を整えた。この健康的な木々が示すように、彼らの努力は報われた。御室桜の花は他の桜とはいくつかの点で大きく異なっている。最も目立つ特徴は、その香りである。他の桜よりも甘い香りがする。また花の大きさも平均より大きい。こうした特徴や、仁和寺が桜を一般の人々にも公開していたことから、江戸時代（1603～1868年）には御室桜は「民衆の桜」となった。年間を通じてほとんどの時期は立ち入り禁止となっているが、4月中旬の花見の季節には一般公開される。